

運動障害リハビリテーション学演習

[演習] 第1・2学年 前期 選択 2単位

《担当者名》 吉田 晋 ysdssm@hoku-iryo-u.ac.jp 武田涼子 岩部達也 山根裕司

【概要】

運動障害の病態は非常に幅が広く、またそのアプローチ方法も多様である。しかし、科学的根拠に基づくものは意外と少ないのが現状である。本演習では論文レビューによりエビデンスを検証していくと同時に、実際の治療手技をバイオメカニクス、神経生理、運動生理学的な変化としてとらえ、その作用を客観的に表す手法を学ぶ。

【学修目標】

一般目標：運動障害に対する文献レビューや運動障害の生理学的、バイオメカニクスの計測手法を演習することで、臨床課題解決能力を身につける。

行動目標：

1. 運動障害に関する論文をレビューし、批判的吟味ができる。
2. 筋電計や脳波計などの計測機器の基本的な使用方法を理解し、データ計測、解析を行うことができる。
3. 3次元動作解析装置の基本的な使用方法を理解し、データ計測、解析を行うことができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1～5	文献レビュー	運動障害に対するリハビリテーションに関連した文献についてレビューする。	吉田 晋 武田涼子 岩部達也 山根裕司
6～10	神経生理演習	脳波や筋電図を使用した簡単な実験を行い、データの解析、解釈を行う。	吉田 晋 岩部達也
11～15	バイオメカニクス演習	床反力、3次元動作解析などを用いて簡単な実験を行い、データの解析、解釈を行う。	武田涼子 山根裕司

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

授業、演習への取り組み、ディスカッション内容50%、課題レポート50%により総合的に評価する。

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

特に指定しない。

【学修の準備】

関連の文献等関係資料を各自調査し学習すること。

予習では、「授業内容および学習課題」について、関連参考図書を読んでおくこと(100分)。

行動目標に記載された事項の準備

復習では、質疑応答の内容および担当教員の助言を整理すること(60分)。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

DP4. リハビリテーション領域における臨床的課題に対し、医科学・心理学・社会福祉学などの学際的視点を取り入れながら科学的に分析・解決する能力を身につけている。

【実務経験】

吉田 晋(理学療法士) 武田涼子(理学療法士) 岩部達也(理学療法士) 山根裕司(理学療法士)